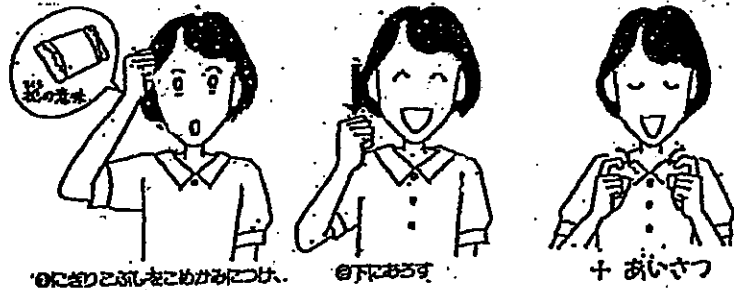


平成28年(2016年)4月22日
 健康福祉部障がい者支援課在宅支援係
 (課長) 岸田 守 (担当) 川村 徳弘
 電話: 026-235-7104 (直通)
 026-232-0111 (代表) 内線 2388
 FAX: 026-234-2369
 E-mail: shogai-shien@pref.nagano.lg.jp

第2回部局長会議におけるミニ手話講座

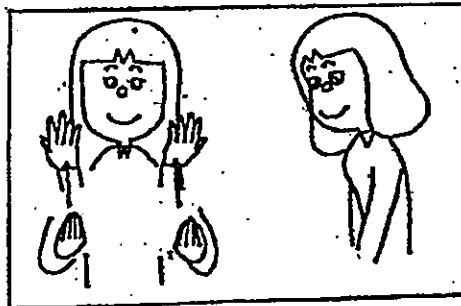
- 1 前回 (H28. 4. 4) のおさらい
 「あいさつ」(12単語)について学習
 「おはようございます」



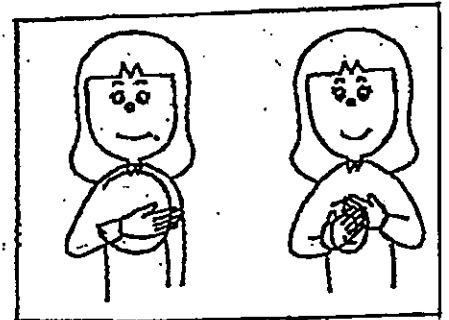
「ありがとう」



「おめでとうございます」



「お大事に」



- 2 今回 (H28. 4. 22) の内容
 「自己紹介」について学習 ⇒第2回手話テキストへ

3 次回以降の予定

月	手話学習の内容	備考
5月	業務上必要な単語の表現方法	手話に関する豆知識を紹介
6月	数字の表現方法	〃

4 その他

手話テキストは、JSN (情報ステーション長野) に掲載してありますので、活用してください。



平成28年（2016年）4月22日
第2回 ミニ手話講座

手話テキスト

自己紹介

◎ 私は税務課の小林と申します。よろしくお願いします。



〈私①〉

人差指で胸を指す。



〈税金〉

親指と人差指で作った丸をすばやく自分に向けて開く。



指文字 ム



指文字 カ



〈名前①〉

左手のひらに右親指を当てる。



〈名前②〉

右手の親指と人差指で作った丸を左胸に当てる。



〈小〉

右手2指の間に左人差指を入れる。



〈林〉

親指を上に向けた両手のひらを向かい合わせて交互に上下させながら左右に開く。



〈言う①〉

右人差指を口もとから前に出す。



〈良い〉

右手こぶしを鼻から前に出す。



〈頼む①〉

右手で拝む。

長



〈長い①〉

親指と人差し指を閉じた両手を向かい合わせ左右に開く。

野



カタカナの(ノ)

県



〈県〉

指文字〈ケ〉と指文字〈ン〉を示す。

知事



〈長②〉

左手の甲に親指を立てた右手をのせる。

阿



アルファベットの(a)

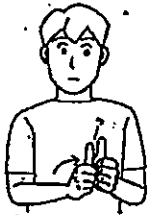
部



カタカナの(へ)

横に移動させる

副



〈副〉

左親指に右親指を少しさげてつける。

知事



〈長②〉

左手の甲に親指を立てた右手をのせる。

太



〈とても〉

親指と人差し指を閉じた右手を左から弧を描きながら親指を立てる。

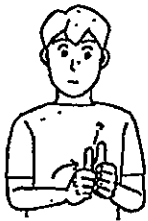
田



〈たんぼ〉

左手3指の上を右手3指で軽くたたくようにする。

副



〈副〉

左親指に右親指を少しさげてつける。

知事



〈長②〉

左手の甲に親指を立てた右手をのせる。

中



〈中(ちゆう)①〉

左手の親指と人差し指と右人差し指で「中」の字形を作る。

島



〈島①〉


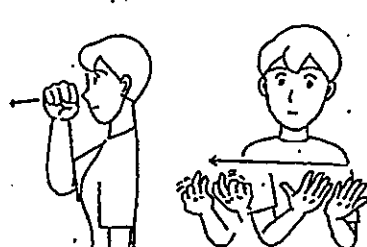


全指を曲げ、手のひらを下にした左手に沿って上に向けた右手を回す。

自分の名前をあらわしてみよう

名前の表現には手話のないものがあります。手話のないものは指文字で表します。

名前に使われる表現

- ・物の形 山 月 林 木
- ・動きや動作 藤巻 降旗
- ・字の形 田 中 井 小 川
- ・音が同じ物を使う

<p>佐藤 (砂糖)</p> 	<p>吉沢 (良し)</p> 
<p>渡辺 (鍋)</p> 	<p>永井 (長い)</p> 

・歴史的な由来から

佐々木 (佐々木小次郎の刀を表す)

加藤 (加藤清正の虎退治の槍を表す)



○あなたの名前は？



あなた



〈名前①〉

なまえ



〈名前②〉



何？

名前の表し方

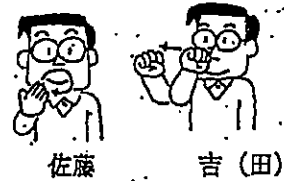
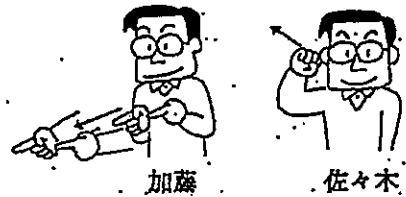
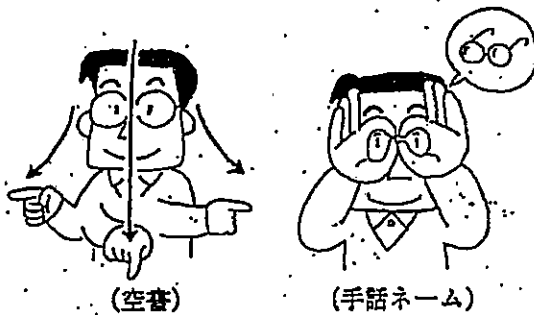
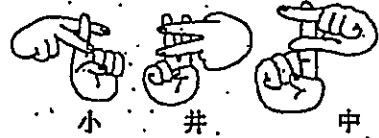
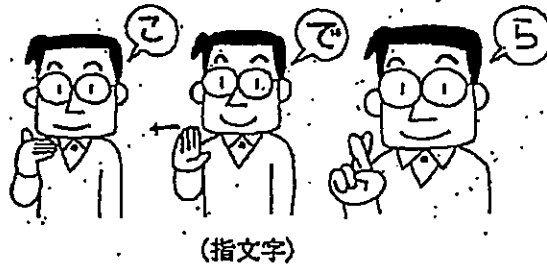
手話

ものの形から—山、木、林、森、橋、谷、鳥、藤
 ものの動きから—村、東、西、本、鈴
 漢字の形から—田、井、甲、小、川、上、下、北
 歴史的な由来から—加藤、佐々木
 言葉の意味や音から—佐藤、原、吉、渡辺

指文字

空書

愛称(その人の愛称)



もっとコミュニケーション

- ◇ 軽く合図をしてから話し始めましょう。
- ◇ その人の望むコミュニケーションを理解しましょう。
- ◇ 顔の表情や口元がよく見えるようにしましょう。
- ◇ 同時に複数の人が話さないようにしましょう。
- ◇ 聴覚障害者が参加する会議や行事などには手話通訳や要約筆記、目で見えてわかる配慮をしましょう。